

会 議 録

<p>会議名 (審議会等名)</p>		<p>第 18 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会</p>				
<p>事務局 (担当課)</p>		<p>都市計画課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通) 生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通) 公園課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 3 (直通)</p>				
<p>開催日時</p>		<p>令和 4 年 5 月 2 9 日 (日) 午前 9 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 1 0 分</p>				
<p>開催場所</p>		<p>けやき会館 2 階 職員研修所 大研修室</p>				
<p>出席者</p>	<p>市民検討会 委員</p>	<p>2 1 人 (1 0 ページのとおり)</p>				
	<p>有識者協 議会委員</p>	<p>5 人 (1 0 ページのとおり)</p>				
	<p>その他</p>	<p>1 0 人 (各施設担当者)</p>				
	<p>事務局</p>	<p>1 2 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 9 人)</p>				
<p>公開の可否</p>		<p>可</p>	<p>不可</p>	<p>一部不可</p>	<p>傍聴者数</p>	<p>3 人</p>
<p>公開不可・一部 不可の場合は、 その理由</p>						
<p>会議次第</p>		<p><開会あいさつ> 1 グループワーク 2 全体会</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は市民検討会委員の発言、 は有識者協議会委員の発言、 は事務局の発言)

1 経 過

生涯学習課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会の野口会長進行のもと、傍聴の確認を行った後、「動線を考える」及び「機能を考える」をテーマに、グループワークを行い、最後に全体会において、検討した内容の共有と意見交換を行った。

2 議 事

(1) グループワーク

まちづくりWGは、まちなかの動線(駅南口から鹿沼公園・新たな施設への動線や、駅周辺に必要な機能や空間)について、視野を広げて考えていくため、「デザインマップ」を作成し、「検討の余地がある場所」を確認・記載した。

公共施設WGは、新たな施設の機能を考えるに当たり、どのような活動をしたい(してもらいたい)のか、そのためには、どのような場所やサービスが必要なのかについて、2つの班に分かれて検討を行った。

なお、グループワークの冒頭で、事務局より検討対象候補施設の在り方等を説明するとともに、有識者協議会委員より、以下の通りコメントをいただいた。

○： 最近の事例としては、図書館として最低限なければならない要素と、あってもなくても構わない要素が混在している。例えば、図書館の中にカフェを設置して欲しいというニーズがある。そこまでは図書館法では位置付けられていないが、実際にカフェを併設している図書館はある。様々な施設の機能を複合化する上で、融通が効くのであれば、何がなんでも図書館の機能として設置する必要はないのではないか。

一方で、蔵書を置くためのスペースは、図書館の機能として必ず必要であり、確実にそのスペースを確保しなければ、いくら居心地の良い図書館にしましたと言っても、根本的な用途には耐えられないことになる。

また、コンセプトを考える際に、図書館は静かにしなければいけないという固定観念が強いが、例えば大学図書館では、その観念は破壊されてきている。大学図書館の閲覧席で利用者の人気が高いのは、利用者が色々と話しながら共同学習をするスペースである「ラーニングcommons」の近くにある席である。

静かに読書をしたい方のための場所の方をパーテーション等で区切って設けた方が良いのではないかと。私は図書館というものは、赤ちゃんが泣いていても全く問題ないというくらいの、皆が集える場所を目指すべきではないかと考えている。

- ： 公民館についてお話をさせていただく。社会教育法は1949年に公布されて以来、時代とともに改正されてきたが、その中で定められている公民館の理念や原理原則、在り方については、大きく変わってはいない。こういった公民館の理念等を知った上で、相模原市の大野北地区という地域性を考えていく必要がある。社会教育法の中では、定期講座の開設をはじめとした公民館が行う事業のほか、住民からの相談業務や地域団体の支援といった役割が明記されている。

家庭教育支援の拠点とすること、奉仕活動や体験活動の拠点とするといったことが、国レベルでも議論されたことがある。これらを、相模原市の公民館でどう対応していくのか考えることも重要ではないかと思う。公民館の持つ機能を1つ1つ点検し、その中で大野北地区に合うものと合わないもの、そもそも理念があっていないのか、理念は大事だけれども実態としてあっていないのか、確認をしても良いのではないかと。

さらに、公民館は「社会教育施設」であるということも改めて確認した方が良いのではないかと。住民一人一人のニーズへの対応も重要だが、社会教育施設として設置されていることを踏まえ、行政として価値的なメッセージを発信することも重要な役割である。公民館で何をしてもらいたいかは、行政としても示すべきだと思う。また、公民館は、住民の参加を前提としている施設でもある。公民館の運営方針を決める住民組織として、公民館運営協議会が設置されている。市全体で公民館は32館あり、その公民館の中で、大野北公民館はどういう役割なのか、そういったことを考えてもいいのではないかと。

公園WGは、令和元年に実施したオープンハウスや前回の市民検討会の検討結果を基に、鹿沼公園の「弱み」や「強み」を分析し、「ヒートマップ」を作成した。各WGの成果は別紙のとおり。

(2) 全体会

各WGで検討した内容を全体で共有し、意見交換を行った。

<まちづくりWG>

2つの小グループに分かれたディスカッションと発表の後、まちづくりWG全体で「デザインマップの作成」活動を行い、「地図上に色を付けた箇所に検討の余地がある」ということを確認した。

: 今回は、駅南口から鹿沼公園・新たな施設への動線、また、駅周辺に必要な機能や空間について、ディスカッションした。2つ目として駅周辺を利用する方の立場や動きのイメージをした。

現状は、鹿沼公園周辺は駅前に駐輪場があるがために、2本の道路が朝・夕・日中を含めて、自転車・歩行者・車の抜け道になっており、非常に混雑している。

混雑しているといっても一時的だが、自転車がかなり多いので、交通事故等、安全に関しては非常に注意しなければいけないところになっている。それによって、現状の駐輪場を移した方がいいのか検討が必要だろうという意見がでた。

駅へのアクセス、北口とのアクセスについて、どうしても北口の方々が使われるのは、駅のところを歩いていく道だが、一番の動線の通路になるだろうとのことだ。

今は(今回のワークで作成したデザインマップでは)点線にしているが、本来であれば、駅南口から鹿沼公園まで直線で行った方が、公園にまっすぐ行ける道であるためいいのだろうが、現状ではロータリーを回って道路をまっすぐということになっている。ここは、検討の余地として、一つの例としてデッキで上を通すとか、下を通すとかの話がでた。

公園の周りについて、公園側には歩道も自転車用のスペースもなく、公園の周りには歩道と自転車用の通路を検討したほうがいいのではないかと、また、健康のためにジョギングやウォーキングできるスペースが外周にできると、なおさらいいのではないかと検討した。

公園の入り口が5か所しかないが、この場所がいいのかどうか、ずらして他の場所に移した方がいいのではないかと検討をした。

公園内を歩行者が通るのは問題ないが、今は少なくなっているかもしれないが、自転車がここ(国道16号側の入口)から駅の方に斜めに通る方がいる。自転車ができるだけ公園内を通るのは避けたく、先ほどの自転車が通行できる歩道を検討してはどうかという付け加えである。

: 補足をする。交通が多いという問題を、公園の外周に通路を設けることで解決できるのではないかとということと、現在の駐輪場の移動が必要という言い方をされたが、そこまでの話はしておらず、ここ(駐輪場)に問題があるということを確認している段階である。

まちづくりWGの中で移動が必要という話になっているわけではない。さきほどのデッキの話も、デッキであったり、ロータリーを移動したりという、方法は決まっていなかったが、何かのかたちで解決できるのではないかと確認した。何かをしていく、考える必要はあるが、その方法は移動と結論付けたわけではなく、案の段階である。そういう風にまちづくりWGが思われるのは

話が違ふと思ったので補足した。駅から鹿沼公園までの道を一方通行にしてはどうかという話も出たし、一方通行にすることで問題が生じるのではないかとこの話も出た。駐輪場を移動すると、この問題（国道16号から駐輪場へ向かう2本の道路について、車・自転車・歩行者が多く危ない問題）も考えなくてもよくなるかもしれないという話も出た。まちづくりWGは難しいと思った。

施設が配置される場所によって、ここはまっすぐな道（駅から鹿沼公園までの道を直進し、公園内を通過して鹿沼公園の反対側に出られる道）を造った方がいいのではないかと、という話も出たが、公園の中でどのような配置するのかという話にもよるし、公園の形をどのように残したいか考えているかにもよるので、まちづくりWGだけで考えているのは難しい。

< 公共施設WG >

各施設の担当者もグループワークに参加したため、AグループとBグループの2班に分かれて、新しい施設でどのような活動をしたいのかについて、検討を行った。

【Aグループ】

： Aグループでは、あらゆる世代の方々が交流するということを中心に据えて、様々な意見が出された。例えば、地域の人々や外国籍の方が、イベントや講座を開催することで、交流が出来たら盛り上がるのではないかと意見が出された。また、新しい施設内のスペースに関しては、会議・学習や仕事をするスペースだけでなく、ゆっくり過ごすことができるスペースが欲しいという意見が出された。個々に部屋を用意するだけでなく、建物のロビー等をフリースペースとして確保してはどうかといったアイデアも出された。図書館の利用についても、読書だけでなく、Wi-Fiが使える環境で調べ物をしたりすることができるという意見が出された。

【Bグループ】

： 今回は、ざっくりばらんな、どんな施設、どんな場所が欲しいかという話をすることができた。その中で特に多かったのは、「子育て」や「ゆっくり過ごす」という意見である。「子育て」については、育児をしている人同士が知り合いになり、気軽に子育ての悩みを口にできるイベントや教室があると良いといった意見が出された。また、雨の日でも子どもたちが遊ぶことができる場所があると良いといった意見が出された。「ゆっくり過ごす」については、カフェや飲食・交流ができる場所があると良いといった意見が出された。現状では、どの施設もフリースペースが少ないことから、静かにできるフリースペースと話をしても良いフリースペースと2つに分けても良いのではないかと意見が出た。その他、「発表する」については、ホールが必要という意見が出さ

れた。「作る」については、調理実習室が必要という意見が出された。また、施設内の備品として、コピー機やミシンがあると、活動の幅がより広がるのではないかという意見が出された。「遊ぶ」については、子どもたちが泥んこになれる場所、ドッグラン、卓球・バトミントン・バスケット等、軽いスポーツができる場所があると楽しいのではないかといった意見が出された。施設の運営面については、受付のところに「総合案内」を設け、簡単に制約のない形で部屋を借り、活動ができるようにしてはどうかという意見も出された。

<公園WG>

： オープンハウスで出た意見と前回の市民検討会で出た、残したい機能や施設、多世代交流施設、バリアフリーの視点、運動遊べる空間、全天候で利用できる休憩施設の意見について、それぞれ、赤と青の付箋に分けて貼ることで、ヒートマップを作成した。意見や要望がたくさん出たので、分かりづらくなっているが、それぞれ、青が「強み」、赤が「弱み」と表現している。その中で、「弱み」である赤の付箋が非常に多く、それだけ鹿沼公園に対する期待や可能性が大きいということが言えるのではないか。

その後、グループワークにおいて、各委員から公園の具体的な推し施設として、1番目、2番目、3番目と順位付けし意見を出した。その中で、中高生向けのスポーツ広場や雨が降っても利用できる全天候型施設が現在の公園には少ないので、鹿沼公園にあった方が良いのではないかといった意見や、今ある児童交通公園は非常に大事な施設なので、必ず残していきたいという意見も出された。そして、鹿沼公園には、広場的な施設が足りていないことから、新たに加えなければいけない施設として芝生広場、多世代交流施設として、お年寄りから若者まで競技している、弓道場があっても良いのではないかという意見も出された。

また、障害のある方、外国人の方が利用しやすいように、ユニバーサル施設を入れていく必要があるとの意見が出された。

【質疑応答】

：ユニバーサル施設とは、どのような施設か。

：色々な方にとって使いやすい施設という意味である。

：まちづくりWGでは、淵野辺駅北口からの動線という話が出たが、大野北公民館や大野北まちづくりセンターを利用する住民が住んでいる範囲は、淵野辺駅の北口を含めとても広い範囲となっている。また、北口には近年大きなマンションも建設され、人口が増えている地域である。市民検討会では、公共施設の集約・

複合化という視点での検討が行われているが、10年後、20年後のことを考えるのであれば、公共施設を集約したり小さくしたりして大丈夫なのかと思っている。これは個人的な希望かも知れないが、「淵野辺駅南口周辺」ということで検討対象になっている公共施設を利用している住民が住んでいる範囲は、そんなに狭いものではないということも考えていただけるとありがたい。

「次世代に引き継ぐ」ということに関して、他のグループの発表の中で、「多世代交流」や「ユニバーサル」といった言葉が出てきた。高齢者のことを考えれば高齢者向けの施設が欲しくなり、子育て世代のことを考えれば、子育て世代向けの施設が欲しくなる。しかし、世代や国籍、障害の有無にかかわらず、その全部が含まれた、ユニバーサルという考え方が当たり前となる状況が「次世代」ということなのだ、と私は捉えた。

：今、「次世代」について話があったが、今回、公共施設WGでは、図書館の具体的な話まではいかなかった。図書館で本を読むこと以外に、音楽を聴くとか、イベントをするようになってくると、読むということだけではなく、五感を刺激するような図書館となっても良いのではないかと思う。これは私の意見だが、例えば、視聴覚ライブラリーで、お孫さんの成長過程を映すような動画の作り方を教えたり、みんなで発表し合う活動ができれば良いと思う。本だけに頼る図書館ではなく、視覚や聴覚に関する色々な資料を収集していき、多様な活動を支えていく施設になれば良いのではないか。今回の公共施設WGでまとめた一つ一つの付箋の内容を見ていただくと、かなりユニバーサルなことをやろうという感じになっていることが分かると思う。多様な活動を支援していく施設にするには、どのような設備を備えれば良いかといった突っ込んだ話にもなっている。北口との問題、南口との問題となってくるが、北口は北口で結構色々な公共施設があると思う。大野北小学校にはこどもセンターがあって、その中では小さい子どもたちを遊ばせるといった活動もしている。老朽化は進んでいるが、幸町児童館もあり、ここにも子どもたちが集まっている。北口には、そういった気づかれなような公共施設というものもあり、そこに足りないものを付け加えていくといった方向での考え方も必要になってくるのではないか。幸町児童館が今後どうなってくるかはわからないが、そういった施設もピックアップしてきて、南口との役割分担とか交流の仕方を考えていくのも可能ではないか。私は、五感を刺激するような図書館を目指しても良いのではないかと考えている。今までの図書館の使い方とは別の使い方をすることでも視野に入れた検討をしても良いのではないかと、今日のWGで感じた。

：まちづくりWGの方で、鹿沼公園の周りに外周路を整備したいという話があっ

たが、公園WGでも、毎回そのような意見が出されている。これは事務局へのお願いになるが、外周道路を作ろうと思うと結構な本数の木を伐採・移植する必要があると思うが、あまり多くの木を切るのは忍びない。実際にどの程度木を切る必要があるのか、どの程度木を残せるのか、データがあればお示しいただきたい。私は、あまりにも多くの木を切らざるを得ないのであれば、外周路はあきらめなければならぬと思うが、いかがか。

：毎木調査として、個々の樹木の位置や大きさは調べた経過がある。樹木医にも見てもらっているため、現在の樹木の状況も分かるが、外周道路の幅をどれくらいにするのが確定しないと、どれくらい樹木に影響が出るのかは不明である。公園の外周に道路を作る場合、用地買収をして、民地側に道路を広げるのは現実的ではないため、公園側に設置する形になると思われる。道路法と都市公園法の兼用工作物として歩道状のものを設置し、歩行者と自転車が通行するとすると、それなりの幅員が必要になる。今の樹木の位置を考えると、当然道路沿いにある大きな樹木は、個々の状況により、移植や伐採が必要になる。

：例えば、プラウドの前にある歩道と同じくらいの幅の歩道を、鹿沼公園側に作ったと仮定して、その場合にどの樹木の伐採・移植が必要になるかということとは分からないのか。様々な課題はクリアしたとして、歩行者と自転車が通行できる歩道を鹿沼公園の中に作った場合、どの樹木に影響があるのか、図示して欲しい。

：次回の市民検討会までに用意させていただく。

：公共施設WGでも、地下の部分に音楽用のホールだとか、駐車場を設置してはどうかという意見も出ている。事務局に伺うが、現在の図書館も地下には書庫が設置されているが、地盤が弱いのではないかと心配している。軟式野球場も、グラウンドがゆるいという話を聞いている。そもそも地下に駐車場や部屋を設けることは可能なのか。

：詳しい調査をしたわけではないため、何ができる、何ができないとお答えすることはできないが、鹿沼公園の周りには、大規模なマンションも建設されており、そこまで地盤が悪いということではないと思われる。もし地盤が悪かったとしても、工事の仕方次第で、施設としては整備ができるのではないかと考えている。

○：私も3歳の娘がいるが、休日に娘とどこで過ごすのかが、結構悩ましい。自分や妻、子ども含めて、みんなが豊かな時間を過ごせる場所があると良いと思う。先ほどのコメントにもあったように、五感を刺激するということになると、子どもからお年寄りまで、身体的なものに訴えるといった考え方で施設を考えると、非常に根源が見えてくると感じた。今日は非常に豊かな時間だったと思う。ありがとうございました。

3 その他

事務局より、第19回市民検討会を6月26日(日)午前中に市立図書館で開催し、同日午後に、希望する委員の方を対象に、淵野辺駅南口周辺の公共施設や街並みを見る「街歩き」の開催を予定している事を伝えた。また、「街歩き」の中で、大野北公民館にも足を運び、ちょうど同日まで公民館まつりが開催されていることから、施設の状況だけでなく、公民館で普段どのような活動が行われているのかを見る機会にもしたいという「街歩き」の主旨を伝えた。

最後に、第20回市民検討会は7月31日(日)に予定していることを伝えた。

以 上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
茅 弘秋	欠席
今 美和子	出席
櫻内 康裕	出席
白石 一郎	出席
進 晴菜	出席
鳥海 宗紀	欠席
濱野 麻利子	出席
森光 雄一郎	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
上遠野 イク子	出席
金 愛蓮	欠席
佐伯 明美	出席
佐藤 正光	出席
高柳 眞木子	欠席
古谷 明李	出席
森田 朱音	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
今井 寿	出席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
城田 大介	出席
田崎 一宏	出席
山口 清孝	出席
山本 里紗	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
伊藤 眞木子	出席
大谷 康晴	出席
押田 佳子	欠席
小島 仁志	欠席
杉崎 和久	出席
野口 直人	出席
山口 直也	出席